

1 事業概要

事業の名称	御蔵島港 里浜地区 離島ターミナル整備事業	評価該当要件	再評価実施時から5年経過
実施主体	東京都(港湾局)	事業所管部署	離島港湾部 計画課
都市計画決定(当初)	-	事業認可年度(当初)	平成6年度 事業期間: H6年度~H15年度
都市計画決定(最新)	-	事業認可年度(最新)	平成6年度 事業期間: H6年度~R18年度
事業箇所	東京都 御蔵島村 里浜	事業規模	岸壁(-7.5m)(東)150m 他
事業概要	御蔵島港は島唯一の港として、島民の生活、産業活動を支える重要な役割を果たしている。しかしながら、年間を通して就航率が未だ十分とは言えず、特に冬季は、連続して欠航が生じており、安全で安定的な海上交通が確保されていない状況である。また、定期貨客船が大型化されることになり、既存岸壁では延長が不足し対応が必要となった。 本事業では、既設岸壁を50m延伸し、海上交通のサービス向上を図る。さらに、小型船舶が安全に準備、休憩、陸揚げが行えるよう物揚場(-3.0m)等の整備を行う。		

2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

社会経済情勢等の変化(認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)
(社会経済情勢の変化・変更内容) 御蔵島港は、御蔵島の玄関口として、旅客の出入りとともに、生活及び産業活動に必要な貨物の大半が取り扱われている。島の経済を支える重要な役割を担っており、情勢の変化はない。 観光客に対応するための小型船施設の拡充や旅客の乗降、荷役作業の安全性の向上が必要である。
(関連計画の変化・変更内容) 【東京都離島振興計画(平成25年度~平成34年度)東京都] 就航率の向上を目指し、海況に左右されにくい港湾整備を行っていく。
(周辺施設の整備状況の変化・変更内容) 平成13年度より、小型船施設を供用開始している。また、集落から港にアクセスする道路は整備済みである。
(関連する他事業等の進捗状況の変化・変更内容) 関連する他事業は特になし。

3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	1.4	(前回評価時 1.3)	
現在価値化総便益額(B)	371.0億円	現在価値化総費用額	263.1億円
・貨物の輸送コスト削減効果	119.8億円	・工事費	259.3億円
・旅客の移動コスト削減効果	43.4億円	・用地費	0.0億円
・船舶損傷損失額削減効果	200.7億円	・維持管理費	3.7億円
・小型船作業コスト削減等効果	7.1億円		
定性的効果	①定期貨客船の就航率が向上することで、観光客の移動の確実性が高まり、島の観光振興に寄与するとともに観光客に対するイメージアップにつながることで観光客が増加する。 ②定期貨客船の就航率が向上することで、貨物輸送の信頼性が高まる。 ③接岸時の揺動や越波が減少し、旅客の乗降や荷役作業の安全性が高まる。 ④貨客動線の分離が図られ、旅客の安全性及び荷役作業の効率が向上する。		

4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況(令和元年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	-	20,544百万円	20,544百万円
執行済額	-	11,581百万円	11,581百万円
(執行率)	-	56.4%	56.4%
一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況			
(5年間未着工又は継続等となった原因) 伊豆諸島は、気象・海象条件が厳しく、水深が大きいため、大規模な構造物が必要となる。また、海上工事は、季節風や台風による波浪等の影響を受けやすい。このため一定の効果を発現する事業の完了までには、長期間を要することが見込まれる。			
(地元の理解・協力の状況) 地元御蔵島村及び東京都島しょ町村会等から、定期貨客船の就航率向上のため、岸壁延伸整備等を求める要望書が提出されている。			
事業の進捗状況・残事業の内容			
(事業の進捗状況) 56.4%(事業費ベース)			
(残事業の内容)			
岸壁(-7.5m)(東)	150 m		
泊地(-7.5m)(東)	12,000 m <sup>2</sup>		
護岸(防波)(東)	110 m		
道路(東)	160 m		
岸壁(-7.5m)パラーペット	220 m		

5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等
これまでの工事実績等を踏まえて、事業完了は令和18年度となる見込み

6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
(新工法の採用など) 水平波力を小さくし、斜面壁に作用する波力を堤体の安定に利用する上部斜面ケーソン堤の採用や比重が大きい中詰材の採用等によるケーソン断面の縮小等を採用を検討する。
(事業手法、施設規模等の見直しの可能性) 就航率の向上、旅客の安全確保及び効率的な荷役作業を確保するために必要な施設規模で計画しており、代替案は考えられない。
その他のコスト縮減の取組 ケーソン構造を採用し、ケーソン製作を東京港で行って、気象・海象条件の厳しい離島での作業を据付のみとすることで、作業の効率化を高めコスト縮減を図っている。

7 対応方針案

総合評価	御蔵島港は、島唯一の港湾であり、物流や観光を担う玄関口として重要な役割を果たしている。就航率の向上、乗降客の安全性向上、荷役作業の効率化、小型船舶の輻輳を緩和する必要があるため、事業を継続する必要がある。
対応方針案	継続